

| 出題分析 | | | |
|--|--------------|--------------|---------------|
| 試験時間 | 90 分 | 配点 | 60 点 |
| | | 大問数 | 6 題 |
| 分量 (昨年比較) | [減少] 同程度 増加] | 難易度変化 (昨年比較) | [易化 [同程度] 難化] |
| 【概評】 大問数は昨年の 7 題から 6 題に減少した。6 題の内訳は、長文読解問題が 2 題 (I・II)、文法・語法問題が 1 題 (III)、比較的短いテキストの空所補充問題が 1 題 (IV)、英作文問題が 2 題 (V・VI) となっている。例年出題されていたテキストの空欄に前置詞を補充する問題は、今年度は出題されなかった。英作文問題では、イラストが意味することについての自分の考えを述べる問題が例年出題されていたが、今年度は 2 つの図表を見て自分の考えを述べるという問題が出題された。文章量・問題量は昨年よりやや減少しているものの、90 分という試験時間に対する厳しさは例年通り変わっていないと言える。問題全体を通して、文章をしっかりと読み込み、要領よく設問を処理して必要がある。 | | | |

| 設問別講評 | | | |
|-------|-------------------------------|---|-----|
| 問題 | 出題分野・テーマ | 設問内容・解答のポイント | 難易度 |
| I | 長文読解問題 (裁判官テオの退職までの人生) | (1) 本文にもとづく問いの答えを選択する問題、(2) 内容不一致文を 6 つ選択する問題、(3) 本文の内容から推論できる文を 6 つ選ぶ問題、(4) 同意表現選択問題・強勢のある母音を判別する問題が出題された。文章量は昨年よりも増加した。本文については、物語の展開と登場人物の相関関係を理解するのは容易ではない。また(3)は、判別するのが困難な選択肢が複数含まれていたため、難しかったと思われる。 | 難 |
| II | 長文読解問題 (テクノロジーが持つパターン識別能力) | (1) 内容一致文を 3 つ選択する問題、(2) 空所補充問題、(3) 本文の結末に適したことわざを選択する問題、(4) 本文の要旨を表した選択肢を選ぶ問題、(5) 同意表現選択問題、(6) 強勢のある母音を判別する問題が出題された。各段落の要旨を選択する問題は、今年度は出題されなかった。例年通り選択肢の吟味と本文の正確な内容理解が求められるが、本文は読みやすく、また全体として選択肢の判別はしやすい問題が多かったため、時間をかけずに解きたい大問であった。 | やや易 |
| III | 短文誤箇所指摘問題 | 文法・語法的に誤りのある箇所を選択する問題。下線が引かれている箇所はそれぞれ 4 か所で、すべて正しい場合もある。中にはやや紛らわしい表現もあるが、解答の根拠となる誤箇所自体は標準レベルの文法・語法の知識で対応できるものが多かった。 | 標準 |

| | | | |
|----|---------|--|-----|
| IV | 空所補充問題 | 8 行の英文に空所が 5 か所与えられている問題。基本的な語句を問う問題が多く、確実に得点したい問題であった。 | やや易 |
| V | 自由英作文問題 | 与えられたメールと日本語で書かれた条件文を見て、メールの文面を埋める問題。与えられた情報は比較的単純でそれらを踏まえた解答を書く必要がある。自由英作文のレベルとしては標準的な問題であり、簡潔かつ素早く解答を書き上げたい問題であった。 | 標準 |
| VI | 自由英作文問題 | イラストの表す意味について、自分の考えを英語で述べる問題が例年出題されていたが、今年度は与えられたアフリカのサイズを他の国々と比較して示す地図とアフリカの人口ピラミッドを見て、自分の考えを述べる問題であった。2 つの図表から自分の考えを思い付く必要がある。解答欄は昨年と同じく 9 行与えられている。 | 標準 |

合格のための学習法

長文読解問題は選択肢の英文も含めると語数が多く、かなりの分量を速く読まなければならない。しかし、内容について細かく問う設問もあるので、速く読むと言っても飛ばし読みは禁物である。テキストや模試を通じて様々なジャンルの英文に接し、長文を読むことに地道に慣れていってほしい。文法問題は知識が曖昧だと得点に結びつきにくいので、普段から正解・不正解の根拠を明らかにしながら解くことが重要である。英作文は早くから対策を始めるのが望ましい。賛否、主張、理由などを述べるための必要最低限の文の書き方はマスターしておき、その年の出題に合わせて応用できるようにしよう。